

アカデミック・ロードマップ（報告：天野部長）

- ・10月～1年間 作成委員会の準備を行う。
- ・役割分担を明確にする。（準備委員会を企画部の基に設置するのか総務部の基に設置するのか、正副会長会議で調整する）

災害調査関連（報告：杉本部員）

- ・企画部は、谷オプザーバーの報告を受け、活動の進捗についてアドバイスする。
- ・第一次提言素案「2011年東日本大震災の教訓と提言」を発表した。
- ・7月末 第一次提言の完成 冊子印刷
- ・2012/3月末 第二次提言の完成 冊子印刷
- ・「地盤判定士」の検討を求められている。計画 に対応する。

ダイバーシティ関連（報告：杉本部員）

- ・アイデア出し、および人手が足りないときに協力をお願いしたい。
- ・8/18(木) 女子中高生夏の学校 Part1
- ・10/21or22 " Part2

委員会評価・規定（報告：濱田部員）

- ・現在、委員会活動のアンケートを回収中である。
- ・9/13(木) 次回企画部会で2010年度レビューシート案とレビューを提示する。
- ・2012/1月～3月 レビューシートの見直し、完成
- ・評価委員会規程案、評価システム案は、改定する場合、公益法人化と評価委員会の目的の変化を反映させる。

資格・認証制度（報告：濱田部員）

- ・「地盤判定士」の導入を再検討するに至った経緯を確認し、優先的に検討する。
- ・作業量が多く、工程調整が必要。

広報・IT（報告：杉本部員）

- ・広報委員会との情報共有を随時実施する

3. ダイバーシティ委員会活動報告（報告；杉本部員）

【別紙 3】pp.36-37

- ・神戸大会女性会員カフェの参加人数は19名。
- ・カフェ後の特別セッションは活発に質疑された。
- ・託児所の利用は、大会が平日であったため1家族であった。
- ・託児所の利用予約はプログラム公表後に日時を指定できるシステムにした方がよい。

4. 次回の開催日確認

第3回：9月13日（火） 15時～17時、終了後に懇親会あり

5. 次回理事会への提案事項

- ・審議事項：なし
- ・報告事項：なし

以 上

表-1 中長期ビジョン アクションプラン
 <企画部主担当 抜粋>

中長期ビジョンの章立て	中期と長期の区別	課題	担当部								中期目標およびアクションプラン (5年後、2015.3)	長期目標(10年後、2020.3)	実施内容	
			総務部	企画部	会員・支部部	国際部	会誌部	事業部	調査・研究部	基準部				支部
3.2 学術技術の進歩への貢献 (1)地盤工学の進歩と展望	長	地盤工学分野の現状分析、周辺分野との融合、対象分野の体系化・統合化										社会情勢の変化を勘案して適宜見直しを行う。 地盤工学研究発表会の分類、地盤工学ハンドブックの目次の項目に反映させる。 地球惑星連合への参画(事業) ・現在、「研究連携部門」の委員会として、岩盤工学委員会とジオシンセティクス工学委員会の2委員会が活動を行っている。この部門の委員会の設置は、必要最低限に留まっており、「微生物分野」、「ナノテク分野」、「ナノセンサー分野」、「リモートセンサー分野」、「次世代地盤情報モデル分野」等との研究連携を見据えて、7委員会程度の委員会を設置し、活動領域を充実させるとともに、他学会の同種の委員会との交流を継続的に行う。(調査) 地盤環境関連の基準の充実する。土工協、全地連、建設コンサルタンツ協会と協力して、必要性の高い基準を作成する。(基準) 日本国内のJIS規格、JGSとISOの整合性を検討し、必要な意見を海外に積極的に発信していく。対応する委員会は、ISO国内委員会とする。(基準)	・ロードマップ準備委員会にて、現状分析と周辺分野の整理を主導して行う。	
3.3 社会への貢献	中・長	認証制度										技術資格・認証に関してメリットとデメリットを整理して、制度の導入の可否について検討し2010年度末に理事会に報告する。 他組織の既存の資格・認証制度への協力の可能性を検討する。	社会情勢の変化を勘案して適宜見直しを行う。	・技術資格・認証に関してメリットとデメリットを整理し、制度の導入の可否について検討し、2010年度末に理事会に報告した。その結果、導入をしないこととなった。 ・2011年度に他組織の既存の資格・認証制度への協力の可能性を検討する。 (・社会情勢の変化から、「地盤判定士」の導入が必要とその経緯を確認する。)
6. マネージメントサイクルの確立に向けて 6.2 委員会評価と予算の連動	中	委員会の性格分類										レビューシートを基に設立主旨と設立目的を確認する。	・アンケートを作成し、現在回収中である。次回企画部会(9月)にレビューシート案およびレビューシートを提示する。 ・レビューシート自体が必要であるか確認する。	
	中	評価システムの高度化										委員会のレビューシートを2011年度までに見直す。 財政規模に見合った委員会活動に絞るため、委員会の選択と資源の集中戦略が必要で、限られた資源を有効に活用することを目的として、委員会活動評価を実施する。そのために、現在提示されている評価委員会規定(案)、委員会設置評価システム(案)の見直しを行う。	・評価委員会の必要性を整理する。現行の規程案作成の経緯を事務局で確認する。 ・規程及びシステムを見直す場合、公益法人化や評価委員会の目的の変化を反映させる。	
8. 今後における学会の果たすべき役割 8.1 学問成果の政策化・他分野との融合	中・長	学問成果の政策化 他分野との融合										ロードマップの作成と絡めて検討する。 「市民と共に歩む地盤工学会」の視点から学会の活動領域を広げ、社会に寄与できる分野への働きかけを強化する。	社会情勢の変化を勘案して適宜見直しを行う。	・技術者教育委員会、技術者交流セッションが開催されたことを実績とする。 (・そのほか、谷オブザーバーに実施内容について助言を求めたい。)
8.2 産官学の連携	中	産官学における学会の役割の明確化										HP、学会誌を情報交換の場として、インターンシップの情報支援策、産・官からの要望を取り込んだ卒業研究実施の支援策、他分野(異業種)との技術交流の支援策を検討する。 産官学における学会の役割(産官学における学会のメリット、学会における産官学の連携のメリット、人的交流方法など)を検討する。 産官学が連携した基準の普及と発信方法を検討する。(基準) 土木学会、他分野との情報交換を推進する。(基準)	研究課題について地盤工学会が産官学の橋渡し役を行う。	

第2回企画部会(2011年7月14日)の議事から、実施内容を加筆した。